

主な国際会議開催

1 日・印 第1回地すべり等防災ワークショップ（日本：2010年1月13日～15日）

このワークショップは、災害に関し政策研究や人材育成などインド政府内で中心的役割を担う内務省国立災害管理研究所（National Institute of Disaster Management of India (NIDM)）とつくばで開催した。今回は、両国における土砂災害とその施策及び地すべり対策とそれに関連する技術に焦点を当てて発表と討議を行った。そして、今後も両研究所が継続的な研究協力を行っていくため覚書を締結した。

この覚書の内容は、外務省協議を経て、我が国とインド両国の首相によってなされた「日本とインドとの間の安全保障協力に関する共同宣言」に基づく安全保障アクションプラン（平成22年1月）の中にも位置付けられることになった。

2 日・インドネシア 第1回道路・橋梁等ワークショップ（インドネシア：2010年3月1日～3日）

このワークショップは、2009年11月に締結した当所とインドネシア公共事業省道路・橋梁研究所（Research and Development Center for Road and Bridge (RDCRB)）との研究協力に関する覚書に基づき同研究所があるバンドン市で開催した。ワークショップには、ヘルマント公共事業副大臣及び同省モッチ研究開発総局長や同研究所の研究者の他にバンドン大学関係者を含め約200人が参加し、両研究所等の研究者の発表と参加者による活発な討議を行った。

3 日・ベトナム 第1回道路・交通に関するワークショップ（ベトナム：2010年9月14日～15日）

このワークショップは、2010年5月に来所されたデュック交通副大臣の訪問を契機に締結した当所とベトナム交通省科学技術研究所（Institute of Transport Science and Technology (ITST)）との研究協力に関する覚書に基づき同研究所があるハノイ市において開催した。

ワークショップでは、両研究所の他に、独立行政法人土木研究所、独立行政法人港湾空港技術研究所、独立行政法人国際協力機構等からも研究者や技術者も参加し、道路舗装や交通技術、交通環境、橋梁、トンネル、港湾に関する分野における両国の発表と討議を行った。

また、翌2011年2月には、ハノイ市、ダナン市、ホーチミン市において、第2回ワークショップの開催を予定している。

4 第1回アジア太平洋国際シンポジウム（インドネシア：2010年10月14日～15日）

この国際シンポジウムは、当所とインドネシア公共事業省道路橋梁研究所(RDCRB)と共催で、「気候変動と道路交通環境」をテーマにデンパサール市（バリ島）で開催した。

国際シンポジウムには、日本、インドネシア、ベトナム、シンガポール、マレーシア、ドイツから約220名が参加した。国際シンポジウムでは、①道路環境政策、②総合交通システム、③関連政策（構造物管理、過積載対策等）の3つのテクニカルセッションに分けて、気候変動が進展する中での道路交通環境やインフラ整備のあり方について活発な議論及び意見交換を行った。最終日には、シンポジウムでの発表や討議を踏

まえ、今後のアジア太平洋地域の道路・交通環境に関する研究戦略や6項目（道路環境やトンネル、橋梁など）の研究連携プロジェクトの特定などを行い「DECLARATION」宣言として発表し閉幕した。

5 第19回アジア国土整備関係研究所長等会議（日本：2010年11月16日～19日）

この会議は、当所が主催している会議で、今回は「地球・地域環境に配慮した社会基盤—持続可能な発展のために—」をテーマに開催した。会議には、日本、インド、インドネシア、ミャンマーから国土整備関係の研究所や中央官庁の幹部研究者や技術者が参加した。

今回の会議では、各国の発表と討議した内容を踏まえ、関連技術政策が環境の視点から、災害関係、道路交通、水質、港湾分野における基本認識と考え方を「Conclusion」としてまとめた。

1～5企画部 国際研究推進室 国際交流専門職 中山 喜志夫

6 第26回日米橋梁ワークショップ 第14回MLIT/FHWA政府間会議（米国：平成22年9月20日～22日）

日米橋梁ワークショップは、天然資源の開発利用に関する日米会議(UJNR)の耐風・耐震構造専門部会の下に設けられた作業部会G（交通システム）の活動として、日米交互開催で毎年行われている。今回は、米国のニューオリンズで開催され、橋梁の性能評価、耐震補強、急速施工、維持管理・点検等に関する論文発表（日本側15編、米国側20編）、討議及び意見交換等を行った。MLIT/FHWA政府間会議は、日米科学技術協力協定の協力テーマ「橋梁等構造物」に関連する米国連邦道路庁との会議であり、今回は、維持管理システムの合理化・最適化のために橋梁点検で取得すべきデータとその活用方法、2月に発生したチリ地震の経験を踏まえ、継続時間の長い地震動の影響、斜橋、曲線橋の地震時挙動等に関する意見交換を行い、継続的な情報交換、双方での調査研究を行うことを確認した。

道路研究部 道路構造物管理研究室長 玉越 隆史、主任研究官 中洲 啓太

7 第6回 日本-スウェーデン 道路科学技術に関するワークショップ

2010年10月に国土技術政策総合研究所において、「第6回 日本-スウェーデン 道路科学技術に関するワークショップ」を開催した。本ワークショップは、国総研とスウェーデン交通庁との協定に基づき、概ね2年に一度実施され、2000年12月に第1回が開催され今回で6回目となる。10月6,7日のテクニカルセッションでは、ITS、トンネル技術、冬期道路管理、交通安全をテーマに議論を行った。10月8日のテクニカルツアーでは、歩行空間ネットワークデータを用いた移動支援システムの体験及び大橋ジャンクションの見学を行った。

道路研究部 道路空間高度化研究室長 金子 正洋

8 第3回 交通・物流に関する国際会議（3rd T-LOG）の開催

我が国を含めた主にアジア地域の国際・都市物流分野の研究者および実務者を中心とした会議で、2010年9月6～8日に福岡市の九州大学西新プラザで開催された。一般セッションでは、物流政策・統計、モデル開発・将来予測、途上国物流、インターモーダル輸送、環境・リスク、ITSとサプライチェーンマネジメントなどのテーマごとに、最先端の研究発表や物流インフラに関わる最近の情勢報告などが行われた。国総研からは、港湾研究部・道路研究部のメンバーが準備委員会の委員・幹事として開催準備に関わるとともに、合計7件の発表を行った。なお、次回は2012年に韓国で開催される予定である。

会議HP <http://www.t-log.info/3rd-Tlog/index.html>

港湾研究部 主任研究官 柴崎 隆一

9 第5回UJNR風に関する日米ワークショップ（米国：2010年7月26日～28日）

本ワークショップは、天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）の耐風・耐震構造専門部会の下に設けられた作業部会D（風工学）の活動として、日米交互に開催されている。今回は米国シカゴ市で開催され、各参加者が最新の研究成果を報告するとともに、耐風設計に関する研究開発を効果的に進めるべく日米間での共同研究／連携の可能性を探るという目的を有している。出張者は、わが国における近年の竜巻災害状況及び国総研で開発した竜巻発生装置の概要に関して報告した。さらに、アイオワ州立大学との間で実施中の共同研究テーマに関して、国総研と同大学双方が所有する竜巻（トルネード）発生装置を活用した実験の詳細について打ち合わせし、今後も継続的な情報交換及び連携を図ることを確認した。

総合技術政策研究センター 評価システム研究室 主任研究官 喜々津 仁密

10 日米欧ITS会議及び第17回ITS世界会議、二国間会議（日本・韓国：2010年10月21日～29日）

ITS研究室では、国土交通省道路局とともに、国際協調しつつITSを推進するために、釜山（韓国）で開催された第17回ITS世界会議に先立ち、米国運輸省研究・革新技術庁及び欧州委員会情報社会メディア総局のITS担当者を招き、日米欧のITS関係者等による会議（日米欧ITS会議）を日本で初めて開催し今後の協力体制や国際連携等について議論を行った。また、ITS世界会議では、論文発表（6編）に加え、セッションにおける運営（1セッション）、プレゼンテーション（1セッション）を行うとともに、サイドイベントのワークショップでの発表（2ワークショップ）を行った。また、二国間会議（米国、欧州委員会、中国、韓国）等における情報交換・意見交換などを実施した。

高度情報化研究センター 高度道路交通システム研究室長 金澤 文彦、研究官 鈴木 彰一